

2024 サマープログラム シアトル研修

2024年8月19日（月）～8月26日（月）



2024年8月19日（月）～8月26日（月）6泊8日の日程で、学生24名と引率教職員が、アメリカへ研修に行きました。新型コロナウイルスによるパンデミックが起きる前は、オレゴン州ポートランドでの研修が恒例となっていました。昨年度は、ポートランドとシアトルの2都市に滞在し、今年度はシアトル1都市での開催となりました。

8月19日(月)

羽田空港から16時頃のフライトで出発し、現地時間朝10時頃、シアトル空港に到着した後、バスでシアトル市内を観光しました。最初の訪問地であるアルカイビーチからは、対岸にシアトルの街並みを一望することができました。その後、スターバックス本社、T-Mobileパークに立ち寄り、ホテルに向かいました。

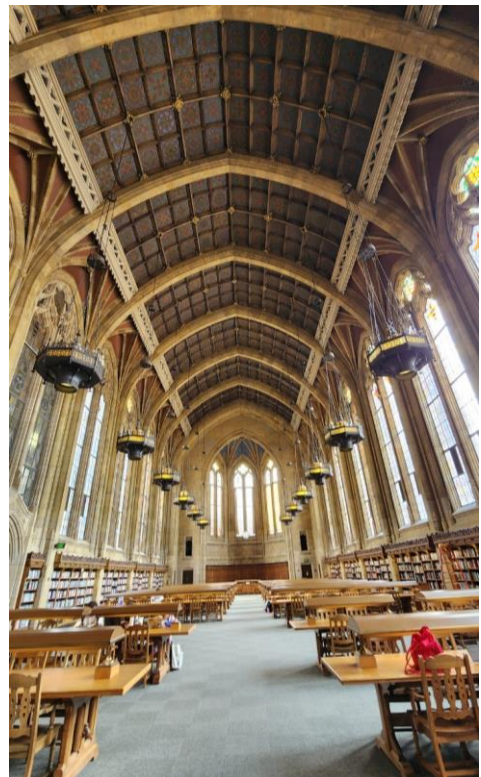


8月20日(火)

午前中は、ワシントン大学看護学部のシミュレーションセンターを訪れました。このセンターは、シミュレーションに基づく革新的な学習体験を提供する最先端の教育施設です。今回の研修では、医療用ムラージュを用いた最先端の医療教育を体験することができました。



午後からは、5グループに分かれて、現地の大学生とワシントン大学内の施設および周辺エリアを散策しました。ワシントン大学内の施設は、どれも洗練されたデザインのものが多く、特に図書館は、圧巻のスケールでした。学生たちは、同世代の若者と英語でコミュニケーションを取りながら、散策を楽しんでいました。



8月21日(水)

午前中は、アジアカウンセリング&リファerralサービス (Asian Counseling and Referral Service: ACRS) を訪れました。

今回の研修では、ACRS本部の施設見学とフードバンクでのボランティア活動を行いました。学生たちは、現地のスタッフとともに、食品の配給を行いました。アメリカで実際のボランティア活動に参加できたことは、現地のスタッフや利用者の方との交流を通じて、アメリカの現状を肌で感じる貴重な体験となりました。また、英語でコミュニケーションを取ることに自信が持てたようでした。



午後からは、Harborview Medical Centerを訪れ、病院見学の後、麻酔科医として活躍されている日本人医師より日本とアメリカの医療の違いについてご講演いただきました。



8月22日(木)

研修4日目は、終日自由行動の日でした。学生たちは、パイクプレイス・マーケット近辺で、ショッピングを楽しみました。パイクプレイス・マーケットはシアトルでも人気のある観光地であり、スターバックス1号店があるので、多くの学生が1号店の限定グッズを購入していました。



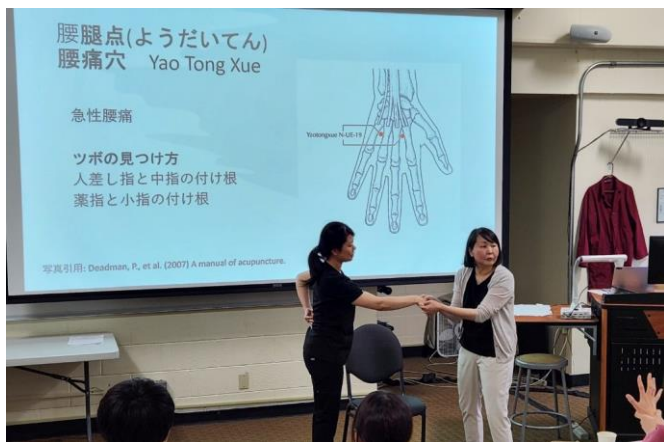
8月23日(金)

もともとのスケジュールでは、この日はラフティングを行う予定でしたが、天候不良のため、キャンセルとなり、代替案として、マイクロソフト本社やAmazon本社などを訪問しました。マイクロソフト本社は、今回が初めての訪問でしたが、急遽、ツアーを実施していただいたり、最新のゲーム機で遊ばせてもらったりと、学生たちはとても楽しんでいました。



8月24日(土)

バスティア大学にて1日研修を行いました。バスティア大学は、自然医学のパイオニアであり、21世紀の自然医学と科学のリーダーを育成しています。キャンパス内をご案内いただいた後、東洋医学の専門家の先生たちに、4つのテーマについて、ご講演いただきました。アメリカでの自然医学療法、偽薬効果について、発達障害のホリスティック医学によるサポート、アメリカと日本の鍼灸医学の比較と概要など、大変興味深い講義内容でした。



午後からは、人体解剖講習を行いました。学生は、2つのグループに分かれて、ご検体に触れながら、それぞれの講師の先生から説明を受けました。実際にそれぞれの部位に触れながら、説明が受けられるというのは、学生にとって大変貴重な経験となりました。今後の学習へのモチベーションが上がったという声が、学生からも上がっていました。



8月25日(日)・
26日(月)

8月25日(日)、11時25分発のフライトで、羽田空港に向けて出発しました。
日本時間8月26日(月)14時頃、羽田空港に無事到着しました。



10月9日(水)

10月に懇親会を開催し、短い時間ではありましたが、思い出を語り合い、
久々の再会を楽しみました。



終わりに

今回のアメリカ研修は、学生が、日本とアメリカの医療の違いについて学び、
現地の医療スタッフ、患者、ボランティア・スタッフ、高齢者などさまざまな
立場の方と直接触れ合う機会となりました。

アメリカ研修は、国際的な感性を併せ持った医療従事者の育成を目指す本学
において、極めて有意義なプログラムの一つと言えます。

研修の開催にあたりご協力いただきました皆様、ありがとうございました。